



2010－2011年度

国際ロータリー第2790地区
第8分区 ロータリー情報研究会 報告書



日 時： 2010年10月24日(日)13時30分点鐘

会 場： 香取神宮 神徳館

ガバナー補佐： 宇井 一雄

ホストクラブ： 佐原ロータリー・クラブ

■開催趣旨挨拶

第8分区ガバナー補佐

宇井 一雄(佐原ロータリー・クラブ)

皆さんこんにちは。

昨年は地区内で4回開催しましたが、今年度の織田ガバナーは各分区ごとに14回開催することになりました。

本来ならば担当委員会である、地区クラブ研修委員会の海寶勘一委員長が来会するところでしたが、米山記念奨学生のカウンセラーの役目があって、本日は欠席することになり、お詫びのご挨拶の連絡がありました。

今年度の織田ガバナーは、ロータリーの綱領の基本に基づいて、職業奉仕を大切にすることになりました。

織田ガバナーの意向で本年度のロータリー情報研究会は、地区職業奉仕委員会の中にあるクラブ研修委員会が開催をすることになりました。

本日のロータリー情報研究会には、地区職業奉仕委員会からは、土屋亮平職業奉仕委員長、安蒜俊雄クラブ研修委員、卓話をしてくださるクラブ研修委員の川名光俊委員の3人にお出で頂きました。

織田ガバナーは、高潔な職業人としての理念をしっかりと学び取って、ロータリーの綱領を良く理解するように、職業奉仕の啓蒙を図っているところですが、情報研究会開催後の各分区では、とっても意識が高まっていることを聴いておりますので、有益な情報研究会にしたいと願います。

米山梅吉さんが曰く、毎週の例会とは人生最高の修練の場であると仰っておりますが、今日のグループ討議の演題が「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」でありますので、卓話者の川名さんのお話を伺ってから、各テーブルごとにバズセッションをして頂きたいと思えます。

むりやり結論をだすことでなく、皆さんの意見を聴きあい、話し合いをしていただき、テーブルごとに発表をして頂きます。

今後は各クラブの活動の中で、有効に活用してくださることを期待しています。

皆様宜しくご協力を願います。

■ホストクラブ会長挨拶

佐原ロータリークラブ
会長 鳥羽 敏信

皆さんこんにちは、第8分区ロータリー情報研究会を開催することになりました、ホストクラブ会長である、佐原クラブ会長の鳥羽です。

分区の皆様ようこそお出で頂きました、また本日お見えの地区委員会の、土屋職業奉仕委員長、卓話者である川名クラブ研修委員、同じく安蒜委員をお迎えでき、まことにありがとうございました。

土屋職業奉仕委員長さんには、平塚ガバナー年度に佐原で地区大会が開催されましたが、いらい大変な厚情を頂いておりますことありがとうございます。

織田ガバナーからは、例会に出席をすることから自らを磨きあげること、及び職業奉仕を大切にすることから、ロータリアンがボトムアップをはかることを提案されています。

各年度によって、ロータリー情報研究会の運営や意味合いが変化していますが、こうした情報研究会の機会を利用して、一層有意義になる話し合いができればと願っていますし、地区委員会からのアドバイスも期待をしております。

今日のロータリー情報研究会が、皆様にとって稔りあることと、充実した研究会になることを願って、ホストクラブ会長としてのご挨拶と致します。

■地区職業奉仕委員長挨拶

土屋 亮平(松戸ロータリー・クラブ)

皆さまこんにちは、地区職業奉仕委員長の土屋です。

今日は第8分区ガバナー補佐の宇井様、ホストクラブの労を取っていただいた佐原ロータリークラブの鳥羽会長様には、このように立派な情報研究会を開催して頂き、たいへんに感謝をしております。

誠にありがたく御礼を申し上げます。

今年度織田ガバナーからは、国際ロータリーや地区からは諸々の要請や指示がされてきますが、提案事項を各クラブでしっかりと対応をできるように、ロータリーに取り組む姿勢を高めてほしいと要請をされています。

その窓口として、是非クラブ職業奉仕委員会の中にクラブ研修委員会を設けて、是非々の判断をしてほしいものですし、会員同士が共に話し合っしてほしいと思います。

ガバナーの要請の一つに、「スタイルを磨こう」とありますが、服装のことではなく、ご自分がロータリーとどのように取り組むのかを、個々のクラブが考えて学ぶことですので、どのように取り組み、生きる姿勢そのものを認識してほしいと思います。

今日のテーマである、「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」のテーマですが、とにかく出席規定にある条項だけを考えてしまいましたが、手続き要覧にあります、例会に出席する意味合いと価値を見いだすことに意義があります。

会員が事業に取り組む姿勢を学び取って、自分の職業繁栄に結びつけることが真髄ですので、よく理解してほしいと思いますし、良く討議をしてほしいと願います。

ロータリーに入っている意味合いは、出席することからご自分の職業の繁栄に結びつけることに、大きな意義があることを学び取ってほしいものです。

ロータリー情報研究会で討議された貴重なご意見を、例会出席から得た貴重な体験を有益に活用させて頂き、皆様の職業繁栄にできるように願っていますので、協議された内容を、是非各クラブに持ち帰って十分に協議をしてください。

会員皆様方のロータリー情報研究会ですので、有意義な会になりますことを期待しております。

■卓話

テーマ「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

川名 光俊(館山ロータリー・クラブ)

皆さん、こんにちは。

只今、ご紹介を頂きました地区職業奉仕委員会のクラブ研修委員会委員を仰せつかっております、川名でございます。

所属クラブは、館山ロータリークラブであり、職業分類は清酒卸しであります。第5分区内で酒類飲料等の卸販売をさせていただいております。

本日は、第8分区分井ガバナー補佐並びに佐原ロータリークラブ鳥羽会長始め、会員の方々には「ロータリー情報研究会」を設定していただき、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

ロータリー精神を簡単に表現するなら、「一人一人が他人の立場に立って物を考え、他人のお役に立つような行動をしようということです」

相手の立場に立って物事を考える思いやりの心が大事です。

「情けは人の為ならず」これがロータリー精神であり、ロータリーの奉仕とは、そこから出てくる行為であります。そして、ロータリークラブという組織はそういう精神を鼓吹し、そういう奉仕の道に熱意を燃やす人を育てようとする学校であると言われております。

今年度、織田ガバナーからは、土屋亮平パストガバナーが主管する職業奉仕委員会に所属する、私達地区クラブ研修委員に対して、各分区分ごとに行われる「ロータリー情報研究会」で、テーマ「私達はなぜ週に一度ロータリーに集うのか」について、分区分の皆様の討議のお手伝いをするようにと使命を頂きました。

昨年のロータリー情報研究会は、私もお手伝いさせて頂きましたが、地区広報・情報委員会が主催した「決議23・34からロータリーを知ろう」というテーマで、第2790地区を4つのグループに分けて実施させて頂きましたが、織田ガバナーは、「クラブの強化はロータリーの綱領を推進すること、つまり、職業倫理高揚実現のため」、クラブ会員は、綱領を遵守する義務を負っており、まず足元をしっかりと見つめ、原則を確認した上で、活発な活動を展開して行くことを願っております。

また、日本のロータリーの危機ということにも大変関心、心配をなさっており、多くの会員の方々に原点・原則に還って、十分なお話合い・討議をして頂きたいということで、14カ所での情報研究会の実施になったわけであります。宜しくご理解の程お願い致します。

本日、卓話をさせていただきますが、私の役割は職業奉仕委員会で学び得た事、一般的に難しいと言われる職業奉仕と例会の出席の関係をできるだけ解り易く皆様にお伝えし、そ

の後のグループ討議の為のいくらかの手助けになればと思っておりますし、皆様と勉強をさせて頂き、素晴らしい情報研究会になるようお願いしております。

これからは、まったくの主観であり、地区委員を仰せつかって、浅学非才の私でありますので、間違った見解等々沢山あると思いますが、ご理解の程宜しくお願い致します。

先程、冒頭でふれさせて頂きましたが、織田ガバナーは、ロータリーの綱領を非常に大事にそして正しく理解して頂きたい、そして4大奉仕の中心として存在するのは職業奉仕であり、ロータリーは職業倫理を高揚することを目的としてあげた唯一の団体で、ここを見失うとロータリーではなくなるということを肝に銘じなければならないと言われております。

このお考えのもと、従来地区クラブ奉仕で行っていた情報研究会を、職業奉仕が主管するということになったのです。

国際ロータリー定款第4条、綱領「ロータリーの綱領は、有益なる事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し」と書かれております。簡単にいうと、「ロータリーの目的は、社会的に価値ある企業活動の基本となるよう、奉仕理念を導入し、育み・・・」となり、綱領の主文は、職業奉仕について述べていることとなります。これがロータリーの根幹は、職業奉仕にあるという所以であります。

特に、第2項において、職業奉仕が強く表現されております。

綱領の第2項「事業および専門職務の道德水準を高めること、あらゆる有用な業務を尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」とあります。

難しく言っておりますが、要するに、自分の仕事に誇りを持ち、自信を持ち、且つ責任を持って大いにかせぎ、相手に対する思いやり、道德的向上に努めればその結果、当然社会を潤すに違いありません。これが奉仕であり、職業奉仕の神髄であると言われてます。

ロータリーの綱領から推察するに、ロータリークラブは職業倫理の向上を図る事を目的とした団体であり、同士の集まりであり、会員は、一業種一会員を原則として、週一回の例会を持ち、会員相互の交流を通して自己啓発を図り、道德水準を高め、その心を持って自らの職業を通して社会に貢献することを目指している倫理運動です(すなわち職業倫理の向上を図るということになります)。

従って、ロータリーは、人材錬成、人づくりの場であり、「ロータリーは、人生道場である」と言われる所以であります。そしてまたロータリーは、自己研修の場であると認識し、

例会出席をしたら良いのではないのでしょうか。

ロータリークラブと言うのは、例会出席と親睦を考えると、(ゴルフや飲み会、温泉旅行など食事を共にすることも必要であり大事な事です)がロータリーの親睦で忘れてならないのはお互いに良く知り合う事、そしてお互いに尊敬し合えるようになる事であり、お互いに「相手の身になって考える」という修練を積むところであると認識を持つことであります)つまり知り合いを広め相互理解を求めるということを骨格として、それに奉仕(職業奉仕の実践)の肉付けをし、情報と言う血液の循環を良くして職業倫理の向上を図り、奉仕の人を育てる場所であります。

だとすると、ロータリーの三大義務としている出席無くして親睦も無ければ、互いの情報と言う血液を受けるとい事も無くなるのではないのでしょうか。そして当然奉仕の肉付けもお粗末になるという結果が見えてきます。だから出席は、目的ではなく目的に達する最重要な手段ということになるのです。

出席を語るとなると前提としての例会を語らなければなりません。

例会の目的は会員同士、切磋琢磨して、自己研鑽に励み、己の足りないところを仲間から学び、異業種の優れた指導者、向上心の強い人との出会いを深め、自己の心の改善を計ることにあり、その結果、奉仕の心、即ち思いやりの心、愛が育まれる場所でなければならぬということになります。

(故に、会長・幹事は、例会に出席する大きなメリットを創出する事の責任がある)常にSAA、プログラム委員会、親睦委員会との連絡、決定の確認等々を行う必要があると思います。

また出席会員の心得として、例会は、会員一人一人が能動体で積極的な参加によって作られるものであり、一人ひとりの出席が、例会を変えロータリーを変え貴方と貴方が関わる家庭・

職場・社会生活を変えるという認識を持つ事が必要ではないかと思えます。

「人は人の中でしか育たない」「何気ない会話の中にヒントがある」(ダイオード、青い光)

過日、10月4日、当地レインボーヒルズカントリーで開催された地区大会記念ゴルフで最高齢者として特別表彰を頂きました館山クラブには皆様もよくご存知だと思いますが、飯田会員(92歳)は、戦後4年半、シベリアに抑留されていたということでもあります。

例会において、年に一度は卓話を頂いておるのですが、戦争はむごい、2度としてはならない、人生は大事に生きて、強く生きて下さいと話されます。弾丸がヒュン、ヒュンと頭

上を過ぎていく時は怖いことはない。自分の周囲にブスブスと突き刺す様な音が聞こえた時はだめかと思った事も何度かあったとっておりました。

その後抑留時代、帰国したら、戦友、国の為に必死に働くことを心に誓ったと言っておられました。帰国後、周囲に押され、全国で2番目に若い村長になられ、その実績で経営がひっ迫しておりました信用金庫理事長をお受けになり、従業員と共に夜毎、お客様の心をつかみ商売繁盛させるかを考え、3年間で約10倍の預金残高を上げて全国1位の伸び率を上げたということです。

この様な人生訓、職業に対する一途な思いなど私にとっては、一言一言が血、肉となっていくお話を聞けるのも、週に1回の例会があるからだと思っております。

飯田会員は、週1回の例会は、異業種の集まり、利害の無い会員同志の中での意見のやりとり、昨日あった出来事などを語り聞く事に依って、1年間を通して出席してみるとそれだけで人間的に成長していくのだということをおっしゃっていました。

現在は耳が少し遠くなり、例会の卓話や会員相互の語り合いも聴きとりにくくはなってきましたが、例会の場の温かさと会員の動きをみているだけで楽しむことが出来て長生きの秘訣ですとっておられました。

といくつかお話しをさせて頂きましたが、ロータリーとしての根幹とされている職業倫理の向上、職業奉仕の実践を行う事原動力は、やはり原点である週に一回の例会に出席し先輩又新しい会員の方々の話を聞き、自分には足りない行動パターンをまねするために（自己研鑽）親睦を深め、委員会活動に積極的に参加する事ではないでしょうか。

終りにあたり、特に今回の情報研究会はこの後のグループ討議テーマ「私達はなぜ週に一度集うのか」の中で職業奉仕と例会出席の関わり合いを皆様で話し合ってもらいたいと思います。

そして、得られた知識をクラブに持ち帰って頂きクラブ内で十分なディスカッションをして頂き、そして今後のクラブ活動活性化に向けて同じような語り合う機会を作って頂く事が今回の情報研究会開催の大きな目的であります。又は、織田ガバナーが地区テーマの内容の中で、ロータリーの今後について大きな心配を抱いていると思えてなりません。

職業奉仕理念の衰退、歯止めの効かない会員減少、例会の形骸化、それに依るクラブ運営の迫力不足、地元地域へ積極的奉仕活動の減少等々、これらの事も今後のクラブの話し合いの中に組み入れて頂けたらと思っております。この情報研究会が実りある充実した会になることを願って私のつたない話を終わらせて頂きます。有難うございました。

■グループ討議発表

Aグループ・・・佐原香取RC 石井 良典会長

例会を充実させるためにも、例会に集うだけでなく、職業人としての情報交流を盛んにする。

外部卓話者を有効に活用することも大切ですが、クラブ内の会員同士の卓話を通して、会員同士のスキルや同義づけを高めるために、職業奉仕を披露することから交流が広まるようにしたい。

会員の職業を通じた卓話や会員交流を活発に有効に活用させ、会員相互理解をはかりたい。自クラブのスキルアップを図ることは、職業人としてロータリアンとしての誇りをもって社会に貢献していきたい。

B・・・多古RC 兼松 はじめ幹事

100パーセント例会出席の重要性を再認識しているし、顔を見合わせての会員交流が有益であることの集いが大切であるし、週一度の例会は貴重である。

今回のロータリー情報研究会の会員同士の討議が大切に感じられる。

例会が食事だけでは物足りないが、すこし余裕をもった穏やかなクラブ運営を希望する。できるだけ例会出席を目指して、例会運営を有益にさせる工夫をしたい。

C・・・小見川RC 宇野 功会長

例会は楽しく意見発表ができる寛容さが大切で、出席することに貴重さがある、自然体で例会に出席して、経営者感覚の学びごとがあることが嬉しい。

異業種の経営者との交流が貴重な体験となっている。

できるだけ自然体での例会出席を望んでいる。

D・・・小見川RC 前田 泰弘会員

週一遍の例会出席を通して、精神的な安定を得れる貴重な時間であるし、積極的に例会に参加する仲間との交流を通して、自分の職業を通して自分を磨きあげる。

仕事から離れた例会場で、すこし学びの場とした例会を目指したい。

時代の変遷にあった運営を目指した例会を通して、意識を高めることができればよい。

E・・・佐原香取RC 神田 哲彦幹事

例会が慣習化されているので、意義ある例会出席を目指したい。

週一度の例会を価値ある集いにする工夫をする必要があるし、継続した例会出席が貴重である。

クラブの活性化を図る努力をする中で、自分自身の修練の為になるように積極的に意識をもちたい。

■土屋 亮平 地区職業奉仕委員長総評

Aグループでありました意見発表ですが、感動した会員卓話を期待することに同感でき、各会員の相互理解の手段になるし、事業繁栄につながる自分の職業人の姿勢を伝達できれば、自己啓蒙運動にもなる。

Bグループであった意見ですが、100パーセント出席クラブを凶る啓蒙は大切です。

今回の情報研究会は、同じ分区の仲間が多くいて、情報交流が盛んにできることが良い。

例会に参加して、ロータリーとは何であるかという意味合いを、会員同士の啓蒙から感化されてほしい。

会員同士の情報交流を例会から得られて、自身の職業方針を伝達してもらえ環境を大切にす。

ロータリー用語を説明できる先輩をつけて、メイクアップを紹介者共々出席をすると、効果が有る。

この世では一人で生きて行けない、そのためにも仲間を大切にす

◎既に行われた分区であった、素晴らしい意見発表を御伝えします。

- ・例会には本音で話せる仲間がいる
- ・退会者が多くいるのは、入会のハードルを高くすることで、退会できにくくする
- ・週一回の例会を楽しむためにも、積極的に出席する
- ・職業奉仕が等閑・なおざりにされているからこそ、今になって職業奉仕を見直されて重要視している
- ・仲間から情報を得られる人生の大学である
- ・例会での出会いは、たくさんのカギが落ちている宝の山であると感じている感覚を、継承してほしい
- ・今になって例会に集う討議をすること自体、ロータリーの危機であるし、出席してこそロータリーであることを確りと認識している若い会員もいる
- ・例会は落ち穂拾いの場であるので、各クラブに持ち帰って、会員同士がいろいろと語り合っこそ、情報研究会の意義が大きくある。

■総評挨拶

国際ロータリー第2790地区第8分区ロータリー情報研究会の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、宇井一雄ガバナー補佐様のご指導の下、鳥羽敏信・佐原ロータリークラブ会長様を始めとする第8分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこのように立派に終えることができましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修委員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、たつての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか？”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掴み採って頂いたと思います。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第8分区のロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様にとってのロータリー情報研究会でありました。

敢えて言わせて頂ければ、地区職業奉仕委員会の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ今日された活発なるご討議をクラブに持ち帰って頂き、楽しく、実り多いクラブ例会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

2010-10-24

地区職業奉仕委員長
土屋 亮平

■宇井ガバナー補佐挨拶

第8分区ガバナー補佐
宇井一雄

実参加人数は 当日になって、ご不幸があった為欠席2名、卓話までで早退が2名のみで全員が最後まで熱心に討議に加わっておりました。

定刻 1時30分開会して挨拶部分は時間を少なくし、早めに卓話にはいりました。

川名委員の熱心な話の中に皆ひきずりこまれたようでした。

休憩の後、5グループに分かれ主にクラブ会長がリーダーとなり、3名の来訪者も加わって会話を引き出してくださったりして下さいました。

グループ討議の成果を各クラブに持ち帰って頂き、クラブ活性化にむけて活発な意見交流をして頂きたいと思っています。

土屋地区職業奉仕委員長はじめ、おいで頂いた各委員に御礼を申し上げて、ロータリー情報研究会が稔りある情報研究会になりましたこと、心より感謝を申し上げます。

出席頂きました地区職業奉仕委員会の皆様と、参加された第8分区各クラブ会員の皆様、誠にありがとうございました、ここに参加された皆様をご紹介申し上げ、心からの感謝及び御礼とさせていただきます。

2010'11 年度「ロータリー情報研究会」開催趣意書

2010-8-1

10'11 年度地区職業奉仕委員会
クラブ研修委員長 海寶勘一
(千葉西RC)

1・織田ガバナーの理念である、「ロータリーの綱領」を基本として、職業に誇りと価値を求めて、高潔な職業人の集まりであるべきクラブ例会の重要性を認識するために、14 分区ごとに《ロータリー情報研究会》を開催企画してみました。

《ロータリー情報研究会》ではクラブ例会が、和気藹々と学び愛、感化し愛、敬愛できる場であることを、改めて認識できるように、地区委員卓話を通して、グループ討議を通して《職業人として、毎例会出席する意義と重要性》を熱く語り合いできることを期待しております。

1・クラブでの5大奉仕活動ですが、形骸化されている社会奉仕と国際奉仕活動が、前年踏襲型の新鮮味に欠ける、奉仕活動に低迷しているように見受けられます。

織田ガバナー年度の最枢要事業である、職業奉仕活動の理念を啓蒙することから、クラブ運営の要となるような委員会活動に結び付けられるように、高潔な職業人として、職業奉仕理念の高揚が図れることを期待しております。

1・クラブ例会も慣習化されて、とかく親睦活動に傾注されていますが、日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁の言葉にあります、「毎週のクラブ例会は、人生最高の修練の場である」ことを目指して、個々の会員が優越感や期待感をもって、切磋琢磨しあえる生き活きと例会に出席できるように、委員会活動と卓話を通して伝えてみたいものです。

1・慣習化されてしまっているクラブ例会の意義を、地区委員卓話やグループ討議を通して、ロータリーの真髄の喜びを味わうことが、《ロータリー情報研究会》のグループ討議である、グループ・ディスカッションの中から享受してほしく思います。

1・《ロータリー情報研究会》の運営なのですが、ガバナー補佐の皆様の絶大なご支援を仰ぎながら、主宰がガバナー補佐輩出のホスト・クラブ会長として、手作りの情報研究会運営がされるなかからは、地区委員が卓話や研修リーダーになることで、地区委員自身のボトムアップが図れますし、委員出身クラブにも還元できることから、クラブ例会に一層の活性化が浸透できることを期待しております。

尚、卓話やグループ討議の際には、地区委員は決して指導者ではありませんので、皆様との語り合いの中から、ロータリー情報の伝達とか、質問への後日解答等のお手伝いをできるように、あくまでも仲間の一人としてアドバイザー役に徹することをご理解願います。

■参加クラブ・会員名とグループ名一覧

26名	佐原香取 RC	19名	多古 RC
グループ名	会 員 名	グループ名	会 員 名
A	石井良典 会長	B	瓜生光雄 会長
E	神田哲彦 幹事		(欠席) 幹事
C	平山重孝	B	兼松はじめ
B	飯田弘之	A	浅野主久
C	香取信治	E	萩原承平
D	坂本文夫	A	鎌形四郎
D	木内信次	E	加瀬恵啓
A	山崎浩一		
B	石井隆道		
	9名		6名

23名	小見川 RC	46名	佐原 RC
グループ名	会 員 名	グループ名	会 員 名
C	宇野 功 会長	D	鳥羽敏信 会長
A	白鳥晴嗣 幹事	B	小林 操 幹事
E	高岡正人	A	八田亮三
D	前田泰弘	E	石橋敬三郎
B	香取成明	C	橋本隆夫
		D	岡沢立雄
		A	宇井一雄 G 補
		B	川原勝寿
		C	松下隆夫
		A	菅井源太郎
		B	金沢義茂
		C	木内 徹
		E	平塚丈泰
		D	白川恒平
	5名		14名

■参加地区委員

地区職業奉仕委員長 土屋 亮平(松戸RC)

クラブ研修委員 川名 光俊(館山RC)卓話者

クラブ研修委員 安蒜 俊雄(松戸東RC)

2790 地区 第 8 分区 ロータリー情報研究会 アンケート

2010 年 10 月 24 日 於香取神宮社務所

ホスト 佐原ロータリークラブ

あなたのロータリー歴 年 推薦者

入会の理由

.....
.....
.....
.....

入会当時、ロータリークラブの印象や思い出

.....
.....
.....
.....

現在、ロータリークラブに思うこと

.....
.....
.....
.....

私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....